

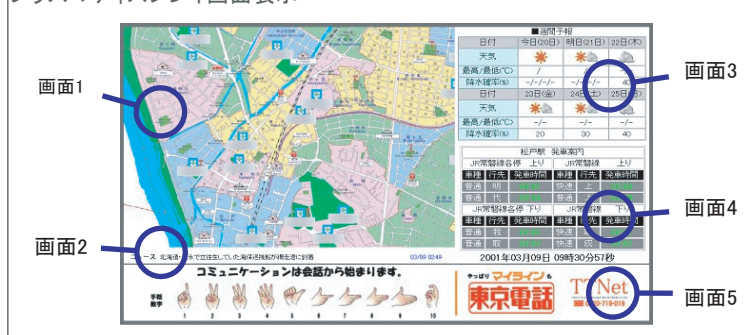
インターネット案内板

生活系住民サービス提供型PFI事業



都市防災活動を独立採算型事業として成立させるー防災コミュニケーション研究事業

プラズマディスプレイ画面表示



50インチのプラズマ画面を搭載し、インターネットに代表されるオープンなネットワークと接続した、屋外に設置する情報提供のための案内板です。

画面を分割し、地図等街区情報、気象情報、自治体広報、時刻表、ニュース速報及び協賛者表示等、広く一般の利用者への情報提供が可能となります。

画面3について、国内初の試みとして携帯電話(iモード対応型)を用い、テレビのリモコン的な感覚で操作することを可能にし、より詳細な情報を入手できるサイトを開設しコミュニケーションを向上させます。行政サービスの充実という観点から、市や各施設の担当者へボタン一つで電話をかけることもでき、地域住民と自治体とのより密接な環境の形成に寄与させます。

画面5については、協賛者表示と連携させることにより、民間企業の社会参加、商業の発展や地域活性化に結びつけることへ期待ができます。

画面1

避難場所等地図(平常時は街区表示図として使用可能)

画面2

ニュース速報

画面3

一定時間ごとに变化

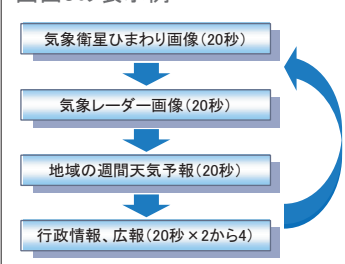
画面4

時刻表他

画面5

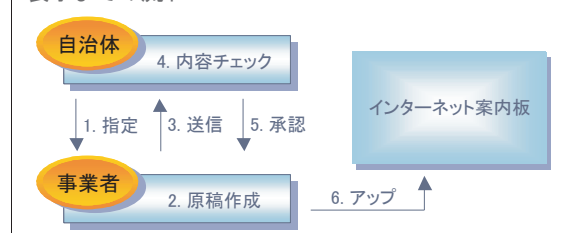
協賛者表示部分(数社を一定時間ごとに表示し、その協賛金等により事業運営の原資とします)

画面3の表示例



※画面表示は、プログラムを変更することによって自由に変更できます。

表示までの流れ



従来の公共事業は、単年度ごとに綿密に計画され、予算を用いて行うことが一般的でした。本事業の特徴として、民間からの資金調達が挙げられます。そのことによりまして、①時宜になかったものへの更新が可能である、②業者との部材調達の際に交渉できる、③不意のリスクに対しての柔軟性向上、③自治体職員の本来(従来)の役割(仕事)をほとんど圧迫しない、等が考えられます。

役割及び責任は、協定に基づき明確に定めることとなります。第三セクター破綻の反省からPFIの観点では、特に責任の明確化、破綻時の処理方法の認識が必要となります。

VFM(バリュー・フォー・マネー)の考え方「一定の支払い(税金)に対して、最も価値の高い行政サービスを提供する」は、数多くあるPFI手法を導入する際の一貫した基本姿勢として用いられており、費用対効果を最大にする事業形態を選択することとなります。